

動機とお願い

なぜこのテーマか？

中央アジアのチュルク諸語は、三つの系統的な語群 (branch) に分類されるが、様々な特徴も共有しうる (cf. Schönig 1999: 72)
 → **共通点と相違点は何が原因**なのだろう？
 → 屈折接辞では表しきれない**モダリティ**に鍵があるのでは？

あくまで「試み」なので…

下記の観点からご助言いただけると幸いです

- ご自身の研究対象である言語のモダリティに関する情報
- 言語接触・社会言語学の理論的観点からの指摘
- 中央ユーラシアの地理的・歴史的背景などの言語外事実からの指摘

地理と系統的分類

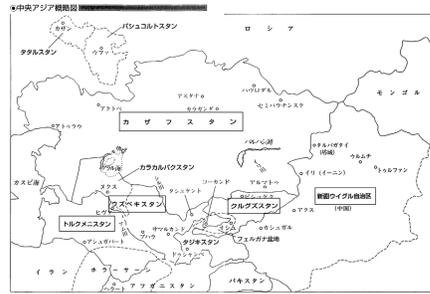


図 1: 中央アジアの概略図 (宇山編 2010: 2に四角囲み付す)

表 1: 伝統的な系統的分類 (Samojlovič 1922: 15, 庄垣内 2002: 8 を参考に作成)

	南西 Trk.	北西 Kr./Ka.	南東 Uz./Uy.
「足」	ayaq/ayak/ayaq/ayagh/oyoq		
「山」	day	taw/too	taγ
「固い」など	gaty/qatuu/qatti		qattiq

問題の所在

-GAn-Turkic (Schönig 1999: 72; 南シベリアのチュルク諸語およびハラジ語も含む)

- 「私が昨日買った本」
 a. トルクメン語 (南西語群; 風間 2022: 480):
 Men dúyn [sat-yn al]-an kitab-ym
 I yesterday buy[trade-CVB.SIM take]-PTCPCPFV book-1SG
 b. キルギス語 (北西語群; 風間・アクマタリエワ 2022: 668):
 Keččë satip al-gan kiteb-im
 yesterday [sell-CVB.PFV take]buy-PTCPCPFV book-1SG.POSS
 c. ウズベク語 (南東語群; 風間・日高 2022: 714):
 (Men) kecha sot-ib ol-ib kel-gan kitob
 I yesterday buy[sell-CVB.PFV take]-CVB.PFV come-PTCPCPFV book
 d. 現代ウイグル語 (南東語群; 風間・新田 印刷中)
 Men tünügün al-gan kitab
 I yesterday take-PTCPCPFV book

→ **共通点と相違点は何が原因**なのだろう？

データ概要

- 『語学研究所論集』第16号 (2011) 「特集 モダリティ」
- 第16号以降に出版された各言語の補遺
- 発表者による調査 (カザフ語)

上記データの収集方法:

風間 (2011) による調査文の翻訳
 ※本ポスターでは直接的にモダリティを表す下記の調査文24文のみ
 拘束的: 許可、禁止、義務、推奨、評価的義務、
 欲求的: 希望、希望3人称制御不能、希望3人称、意志、勧誘、勧誘意向不明、
 1人称命令、3人称命令、遠未来命令、命令、懇願
 動的: 能力可能、状況可能
 認識的: 確信、推量、疑念、可能性
 証拠性: 視覚/聴覚以外、伝聞

※これらの調査データは、日本語からの調査文を翻訳した例から得られたものであり、被調査者の日本語文の解釈によって様々なバリエーションが出現しうることに留意する必要がある。

モダリティを表す手段

表 2: 中央アジアチュルク諸語におけるモダリティを表す手段

	南西		北西		南東					
	Trk.	(%)	Kr.	(%)	Uz.	(%)	Uy.	(%)		
屈折形式	14	(53.8)	10	(40.0)	10	(37.0)	9	(33.3)	8	(30.8)
分析的形式	5	(19.2)	11	(44.0)	13	(48.1)	15	(55.6)	16	(61.5)
補助動詞	4	(15.4)	2	(8.0)	2	(7.4)	2	(7.4)	2	(7.7)
語・接語	0	(0.0)	2	(8.0)	1	(3.7)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他	3	(11.5)	0	(0.0)	1	(3.7)	1	(3.7)	0	(0.0)
計	26	(99.9)	25	(100.0)	27	(99.9)	27	(100.0)	26	(100.0)

モダリティを表す手段

トルクメン語 (南西語群) **屈折 -mAll**
補助動詞 -(l)p bil-「知る」/**bol-**「なる」

- 拘束的・義務「(遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。」
 Trk. Biz öy-e git-meli.
 we house-DAT go-OBLG
- 認識的・疑念「彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。」
 Trk. O-lar entek gel-enok, ýol-da maşyn döw-ül-en bol-maly.
 that-PL yet come-NEG.PRS way-LOC car break-pass-PTCP.PFV be-OBLG
- 拘束的・許可「(その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。」
 Trk. Öy-üriz-e gid-ip bil-yä-ñiz.
 house-2PL-DAT go-CVB.PFV know-PRS-2PL
- 拘束的・禁止「(腐っているから、あなたは) それを食べてはいけません。」
 Trk. Zayalan-yp-dyr, o-ny iy-ip bol-anok.
 go.bad-CVB.PFV=COPASSERT that-ACC eat-CVB.PFV be-NEG.PRS

モダリティを表す手段

キルギス語・カザフ語 (北西語群): 語・接語による手段

(11) 証拠性・視覚/聴覚以外の感覚による判断
 「(額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。」
 Kr. Senin temperatura-ñ bar go.
 君(GEN) 熱-2SG:POSS ある MOD

Ka. istiy-iñ bar siyyaqtı.
 heat-2SG:POSS existence like

(12) 証拠性・伝聞「(天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ」
 Kr. Erten jaan jaa-y-t eken.
 明日 雨 降る-PRES-3 MOD

分析的手段

表 3: 分析的手段の詳細 (抜粋)

	南西 Trk.	北西		南東		
		Kr.	Ka.	Uz.	Uy.	
拘束的	許可		条+なる	条+なる ①	条+なる	条+なる
	義務		動+必要な	動+必要な ②	動+必要な	条+なる ⑥
	評価的義務		動+必要な	動+必要な	動+必要な	条+なる
欲求的	希望	動+来る	動+来る	動+来る ③	動+来る	動+来る
	希望制御不能		条+eken	条+よい	条+edi	条+なる
	希望3人称	動+来る	動+来る	動+来る ③	動+来る	動+ある
認識的	懇願					条+なる
	確信	形+=dyr	動+必要な	動+必要な ④	動+必要な	
	疑念		条+必要な	条+必要な	条+必要な	形+話
可能性		条+必要な	動+可能な	動+可能な ⑤	動+可能な	

分析的手段

- 欲求的・希望「(お腹が空いたので、私は) 何か食べたい。」
 Trk. Bir zat-lar iy-es-im gel-yär.
 one+thing-PL eat-OPT-1SG come-PRS
 Kr. (Ačka bol-du-m) Bir nerse je-gi-m kel-ip jat-a-t.
 (お腹が空くなる-PST1-1SG) 一物 食べる-VN-1SG来る-CVB 横たわる-PRES-3
 Ka. bir+närse že-gi-m kel-ip tur.
 one+thing eat-VN-1SG.POSS come-CVB.SEQ stand
 Uz. Qorn-im och-di-ø. Shu-ning uchun nimadir ye-gi-m
 stomach-1SG.POSS empty-past-3 that-GEN for something eat-VN-1SG.POSS
 kel-yap=ti.
 come-PROG=3
 Uy. (Qorsiq-im éç-ip) birer nerse ye-gü-m kel-di.
 stomach-1SG.POSS feel.hungry-CVB.PF some thing eat-VN-1SG.POSS come-IND.PST

いくつかの指摘

- 中央アジアに共通するモダリティ形式は**希望「動名詞+来る」**のみ
 cf. トルク語 (南西語群) 「動名詞+望む」 (菅原 2011: 194, 199)
- トルクメン語は古い特徴も持つ南西語群の言語と言えるかも？
 少なくとも中央アジアの他のチュルク諸語とは異なる特徴をいくつか持つ。
 1. 長母音の区別がある
 (古代チュルク語にあった、現在はトルクメンとサハが保存; 庄垣内 1988: 943)
 2. 南西語群に広く見られる義務形 -mAll を持つ
 (ただし、南西語群の -mAll にはない特徴あり; Rentsch 2015: 139)
 → 言語接触により中央アジアの他のチュルク諸語の特徴を獲得した？
- ウズベク語は、同南東語群のウイグル語よりも北西語群に似ている？
 そもそもウズベク語の基層は、北西 (キプチャク) 語群にあり？
 cf. The transitional position of Uzbek between Kipchak and South East Turkic results from a development from a Kipchak language to a "mixed" Kipchak-South East Turkic. (Schönig 1999: 85)

中央アジアのチュルク諸語におけるモダリティ対照の試み

日高 晋介 (学振PD/新潟大学)

2023/1/28 (土) 言語学フェス2023 @oVice

謝辞

本研究は、日本学術振興会 科研費 JP22J01538 の助成を受けている。

調査にご協力いただいたインフォーマントの方、出版前の現代ウイグル語のデータの引用を快諾して下さった風間伸次郎氏・新田志穂氏に深く感謝申し上げます。ただし、本稿における誤りは、全て筆者に帰するものである。

参考文献

- アクマタリエワ、ジャクシルク (2011) 「キルギス語—データ：「モダリティ」」『語学研究所論集』16: 203–9.
- 日高晋介 (2013) 「ウズベク語：補遺データ (受動表現, ヴォイスとその周辺, モダリティ)(データ)」『語学研究所論集』18: 467–85.
- 風間伸次郎 (2011) 「まえがき—テーマ企画：特集「モダリティ」」『語学研究所論集』16: 29–55.
- 風間伸次郎 (2022) 「トルクメン語：特集補遺データ「他動性」「ヴォイスとその周辺」「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」「所有・存在表現」」『語学研究所論集』26: 439–99.
- 風間伸次郎・アクマタリエワ、ジャクシルク (2022) 「キルギス語：特集補遺データ「受動表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」「所有・存在表現」」『語学研究所論集』26: 649–697.
- 風間伸次郎・日高晋介 (2022) 「ウズベク語：特集補遺データ「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「否定、形容詞と連体修飾複文」「所有・存在表現」」『語学研究所論集』26: 699–732.
- 風間伸次郎・新田志穂 (印刷中) 「現代ウイグル語：特集補遺データ「他動性」「ヴォイスとその周辺」「連用修飾複文」「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「情報構造と名詞述語文」「所有・存在表現」「否定、形容詞と連体修飾複文」「情報構造の諸要素」」『語学研究所論集』27.
- Rentzsch, Julian (2015) *Modality in the Turkic languages: form and meaning from a historical and comparative perspective*. Berlin: Klaus Schwarz Verlag.
- Samojlovič, A. N. (1922) *Nekotorye dopolnenija k klassifikacii tureckih jazykov*. [チュルク諸語の分類に関する若干の補足] Petrograd: Rossijskaja Gosudarstvennaja Akademičeskaja Tipografija.
- Schönig, Claus. (1999) The Internal Division of Modern Turkic and Its Historical Implications. *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae*. 52: 63–95.
- 庄垣内正弘 (1989) 「チュルク諸語」『言語学大辞典 第2巻 世界言語編 (中)』937-950. 東京: 三省堂.
- 庄垣内正弘 (2002) 「中央ユーラシアの言語接触-チュルク語の場合 (特集 言語接触と言語の変容)」『EX ORIENTE (えくす・おりえんて)』6: 1–50.
- 宇山智彦編 (2010) 『エリア・スタディーズ 26 中央アジアを知るための60章【第二版】』東京: 明石書店.